

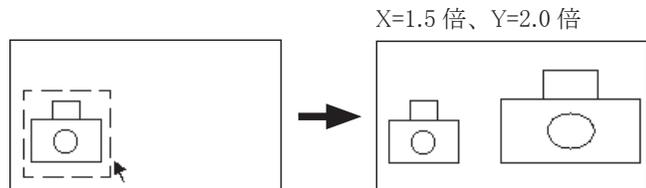
CADPAC-CIVIL Ver.10 新機能

1. 縦横変倍

枠選択により指定された図形（線・円・円弧・楕円・楕円弧）や文字に対し、X（横）、Y（縦）方向の倍率を指定して複写または移動、及びその回転処理を行うことができる新コマンドです。

複写、移動後の色、線種、レイヤー等も指定することができます。

[編集 / 変更 / 縦横変倍]



2. 隠線再計算

隠線パーツ同士を別の図面間で移動や複写した場合に、隠線表示をただしく再計算する新コマンドです。

隠線パーツ同士を別の図面間にまたがり移動や複写した場合、隠線パーツが正しく表示されない時があります。通常の基準表示や再表示で、隠線が正しく表示されない場合は、隠線再計算コマンドにより、現在アクティブの図面に隠線パーツを再度計算しなおし、正しい表示を行います。

[補助 / 隠線再計算]

3. 付箋

付箋機能とは、図面ごとやシステム共通の小さなメモ用紙（付箋紙）を作成し、本システムのウィンドウ内に表示する CADPAC-CRATOR2D の機能です。CADPAC-CIVIL では付箋を作成することはできませんが表示することはできます。アイコンツールバーから表示のオンオフを切り替えます。

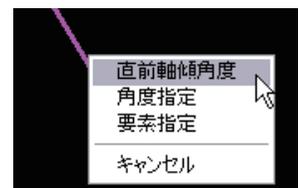
[基本操作 2/ 付箋]



4. 軸傾

軸傾の角度を指定できるようになりました。軸傾モード中に図面上でマウス右ボタンをクリックすると表示されるポップアップメニューから「角度指定」を選択すると角度数値入力ボックスが開きます。

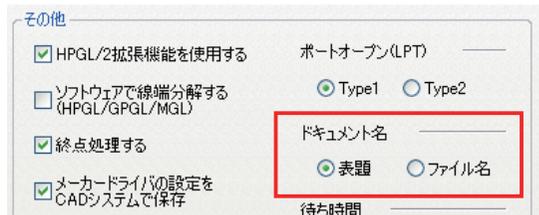
[基本操作 4/ モード設定]



5. 出図

「環境設定 / その他」のドキュメント名設定による印刷ドキュメント名の指定がIMGPrinterで出力する際にも適用されるようになりました。

[ファイル / 出図]



6. 開く

フォルダリストの編集ダイアログボックスから、バックアップフォルダを呼び出せるようになりました。

[ファイル / 開く]



7. SXF 出力

図面上の補助点要素を除外して出力できるようになりました。

[ファイル / 外部出力 / SXF 出力]



8. 出図

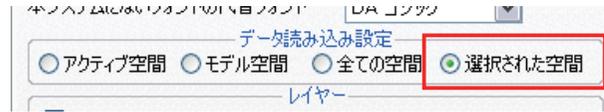
[環境設定] を閉じたとき、項目選択状態が記憶されるようになりました。次回起動時に状態が再現されます。

[ファイル / 出図 / 環境設定]

9. DXF・DWG 入力

読むレイアウト空間を選択できるようになりました。各空間ごとにシートウインドウを生成して変換を行います。

「変換条件設定」の全般タブにある項目「データ読み込み設定」に新たに追加された「選択された空間」を選択することで有効になります。



機能を有効にすると、データ読み込み処理前に空間選択ダイアログボックスが開くようになりますので、任意のレイアウト空間を選択し、[完了]で実行します。

[ファイル / 外部入力 / DWG・DXF 入力]



10. DXF・DWG 入力

2 段平行寸法、幾何公差に対応しました。

[ファイル / 外部入力 / DXF・DWG 入力]

11. JW_CAD 入力

ファイルバージョン 7 に対応しました。入力したファイルに画像が同梱されている場合は、画像を無視して読み込みます。

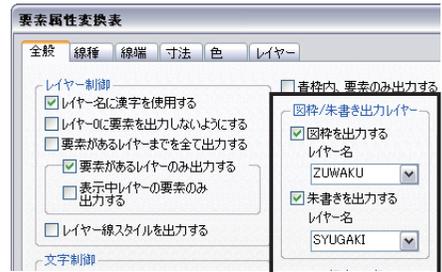
[ファイル / 外部入力 / JW_CAD 入力]

12. DXF・DWG 出力

朱書き、図枠レイヤーに作図された要素の出力を制御できるようになりました。

[変換条件設定] をクリックすると開く要素属性変換表ダイアログボックスの全般タブにある項目「図枠 / 朱書き出力レイヤー」でそれぞれのチェックボックスのオン、オフで出力するかしないか指定することができます。また、レイヤー名入力ボックスがコンボボックスになり、過去の入力履歴を呼び出せるようになりました。

[ファイル / 外部出力 / DXF・DWG 出力]

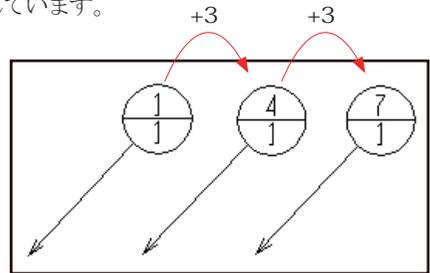
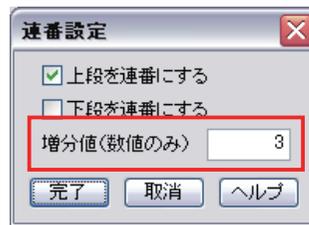


13. パルーン

連番の増分値を設定できるようになりました。

[5. 連番] ボタンを右クリックすると開く設定ダイアログボックスに、増分値を入力できるボックスが追加されています。

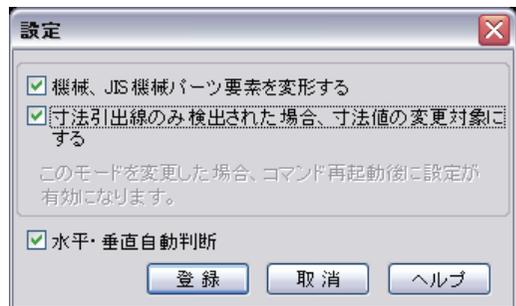
[作図 / 文字記入 / パルーン]



14. 変形

枠選択 CSB が表示され、かつ要素が未選択のとき、「Shift + [完了] ボタン」もしくは「Shift + マウス右クリック」を入力すると、変形 CSB の [B. 設定] で表示される設定ダイアログボックスを呼び出すことができます。

[編集 / 変更 / 変形]



15. 選択 CSB

選択 CSB で要素を複数選択した時、要素数がメッセージ欄に表示されるようになりました。

[編集 / 枠選択の概要]

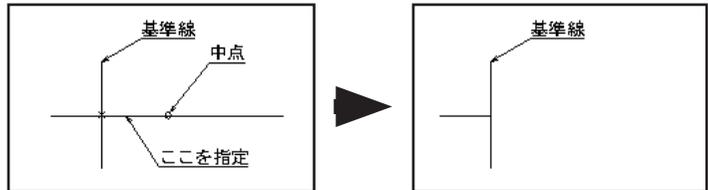
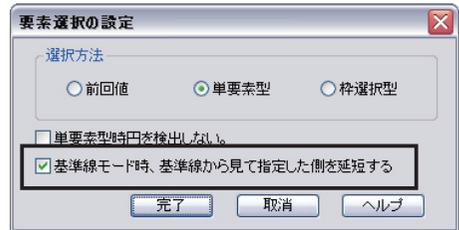


16. 延長短縮

[2. 基準線] モードの時に延長短縮する端点を指定する際、基準線を基準に判別できるようになりました。

[8. 設定] から要素選択の設定ダイアログボックスを開き、「基準線モード時、基準線から見て指定した側を延短する」にチェックを入れることで、従来の中点基準から基準線基準へ設定を変更できます。

[構成 / 塗潰し図形 / 順位変更]



17. 重複線消去

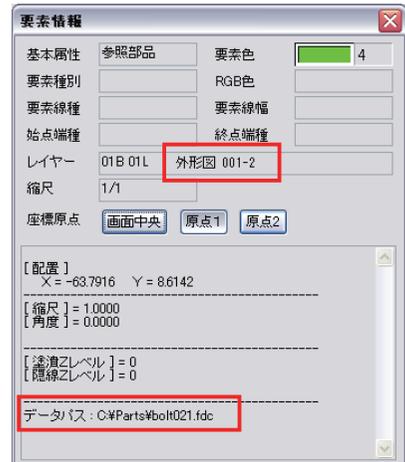
[6. 誤差] に設定可能な値の上限が、従来の 0.5 から 1.0 までに拡張されました。

[構成 / 消去 / 重複線消去]

18. 要素情報

レイヤー欄にレイヤー名称が表示されるようになりました。

参照部品の要素情報に、元データのパスが追加されました。
[補助 / 計測 / 要素]



19. システム設定・色彩

中指定等で検出された領域に、割り当てる色を指定できるようになりました。
[補助 / システム設定 / 色彩]



20. システム設定・色彩

モノクロのラスターデータに対してデータ色、背景色、透明度を指定できるようになりました。
[補助 / システム設定 / 色彩]



